

東葛しぜん観察会

緑あふれる千駄堀とヤマユリ香る森を巡る

高木 喜久雄（松戸市）

日 時：2022 年 7 月 10 日 10 時～12 時

場 所：千駄堀地区 しんやまの森～芋の作の森～21 世紀の森と広場（松戸市）

参加者：一般参加者 27 名、指導員 13 名（担当指導員：草野・三角・高木）

いつ梅雨が明けたの？ という感じで 今年は早く梅雨が明け、暑い日々 猛暑が続く。そんな中 やっぱり森の中は涼しいと思わせてくれる貴重な森を訪問し、そこに咲くヤマユリの観察会である。コロナ禍のこともあり 定員 20 名を予定していたが、応募者が多く 増員受付をして実施した。

集合は八柱駅北口、3 班に分かれて出発。下り勾配の住宅街を 10 分程度歩いて ボタンクサギの咲く林を通り 最初に着いたのはしんやまの森。松戸里やま応援団の里やま V が手入れしているフィールドである。この森で 15 年も活動している三角さんから、里やまボランティアの活動状況とナラ枯れのカシノナガキイムシ対策ネット巻きを紹介され、森の中の様々な樹木や植物を観察しながら、また ボランティアの手の入っている森とそうでない森との違いを観察しながら、少し離れた次の森へ移動。

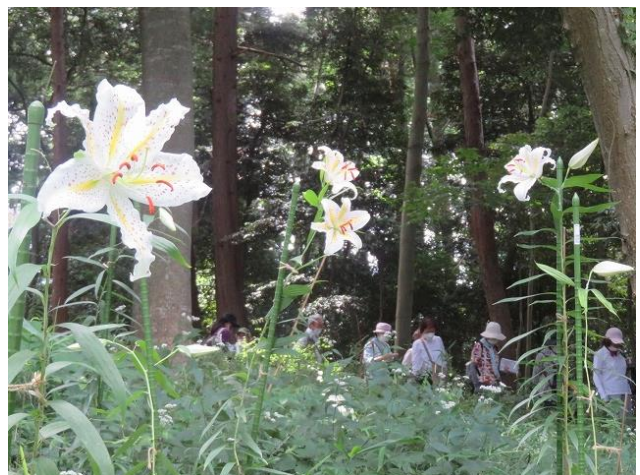
芋の作の森のこの日はヤマユリ観察会が開催され 近隣の方々も訪れ賑やかな森の一日になりました。八輝の会のメンバーの案内で 2 班に分れて 森の中をめぐるコース、北側の斜面にヤマユリが群生しており、森には 200 本のヤマユリがあるそうで この日は 60 輪ほどが咲き乱れ ユリの匂いが漂い 我々を歓迎してくれた感じでした。花の写真を撮り 匂いをクンクン 華やかな感じが森に漂っていました。薄い紫色のヒヨドリバナ、淡青紫色のアキノタムラソウ、ハナイカダの黒い実なども観察できました。

しんやまの森・芋の作の森での観察後、21 世紀の森と広場へ向かいながら、千駄堀地区の松戸とは思えない景観＝広～い畑と長く続く森の見えるところで、松戸の森林の現状について説明。千葉県森林率は 47 都道府県の中で 45 番目。しかも 小数点以下を四捨五入すると、46 番目・47 番目と同じ数字になる。つまりビリ 3 県となる。日本のビリの千葉県の中で、松戸市の森林率は、これまたビリから 3 番目のたった 3%。松戸のボランティア活動は、こういう都市樹林の中で行われているのだと訴える。

参加者からは、「ユリの王様と言われるヤマユリをみられてよかった」「草花のことを教えてもらってよかった」「森が少ないことは全く知らなかった」という声が聞かれた。この後 江戸時代に建てられた安蒜家長屋門を観て 21 世紀の森と広場で解散した。



ハナイカダの黒い実を観察



ヤマユリはユリの王様 匂いよし